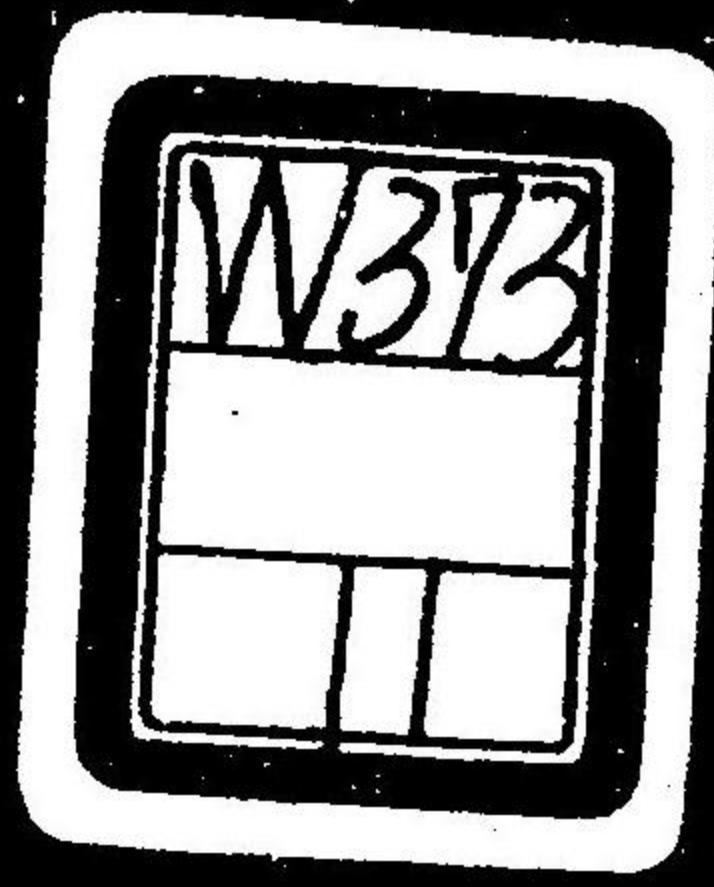


牧羊説

杉山親譚

上



300423-001-1

W373-11

牧羊説

レーベ/著, 杉山親/[妙]訳

2冊

1882

BDJ-0034



杉山 親譯

牧羊說

東京

有終堂
有隣堂
合梓

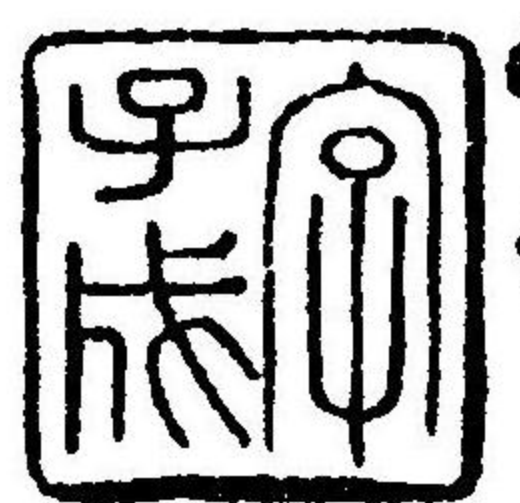


820321

羊之屬甚多而此之為羊人
以牧羊為冠而物言其之樣
而已至其革肉指物言其之
用其生乳汁之製其好之乳酪
其羊之乳之可謂大者友之
杉山親譯

予多年西洋農學ニ志アリテ、嚮^{サキ}ニ牧牛説ヲ譯シテ世
 ニ公ニシ。今亦友人某ノ懇^コ懇^コニ任セテ、此書ヲ譯述セ
 リ。原本ハ獨逸國ノ學士レーベ氏ノ一千八百六十三
 年第六月^{来責ニ於テ}著述シ、後四年ヲ歷テ、同所ニ於
 テ、出版スル所^{ライフマ}ノ「ブツフ、デル、ランドマント」ト題セル農
 學書ヨリ撮譯シタルモノナリ。其書卷帙浩翰ナラス
 簡易ノ書ナリト雖モ、素ヨリ經濟書ノ一ニシテ、農事
 ニ於テ必ラス欠ク可カラサルノ書ナリ。其足ラサル
 所ノ箇條ハ、エ^ンク^ラール^ル氏ノ農學書中牧羊ノ條ヲ

明治二十年五月
 柏原ヨシ高漢



緒言

予多年西洋農學ニ志アリテ、嚮^{サキ}ニ牧牛説ヲ譯シテ世
 ニ公ニシ。今亦友人某ノ懇^コ懇^コニ任セテ、此書ヲ譯述セ
 リ。原本ハ獨逸國ノ學士レーベ氏ノ一千八百六十三
 年第六月^{来責ニ於テ}著述シ、後四年ヲ歷テ、同所ニ於
 テ、出版スル所^{ライフマ}ノ「ブツフ、デル、ランドマント」ト題セル農
 學書ヨリ撮譯シタルモノナリ。其書卷帙浩翰ナラス
 簡易ノ書ナリト雖モ、素ヨリ經濟書ノ一ニシテ、農事
 ニ於テ必ラス欠ク可カラサルノ書ナリ。其足ラサル
 所ノ箇條ハ、エ^ンク^ラール^ル氏ノ農學書中牧羊ノ條ヲ

鈔譯シテ以テ。是ヲ補ヘリ。世ノ黄初平ノ跡ヲ踏ント
欲スル者。先^ツ此書ヲ讀ハ。蓋シ牧羊ノ事ニ於テ。畧^ホ其端
緒ヲ得ルニ至ルナラン。

明治六年三月

杉山 親識

牧羊說目錄

卷之一

- 牧羊ニ便利ノ土地ヲ撰フ事
- 牝羊ノ懷孕并ニ羊子ヲ産ム事
- 羊子ヲ養育スル事
- 牧養ノ事
- 冬日屋養ノ事

卷之二

- 羊ヲ畜養スル事
- 羊ヲ肥ス事

○羊毛ヲ洗フ事并ニ羊毛ヲ銕ニ剪ル事

○羊小屋廣狹ノ事

○羊ヲ蕃殖スル事 ○羊ヲ肥ス事

○羊ヲ成長セシムル事

○羊ノ諸病

乳房腫脹 泄瀉 羊子ノ麻痺 舞病

オングニス

牧羊說目録 終

牧羊說卷之一

杉山 親 譯

○牧羊ニ便利ノ土地ヲ撰フ事

○夫レ牧羊ニ宜シキ土地ハ天然ノ牧野ニシテ他事ニ用ヒ難キモノヲ以テ最良トス此ノ如キ牧野ハ實ニ春夏秋ノ三月牧羊ニ於テ便宜ノ基本ト云フ可キモノナリ此牧野ヲ除クノ外羊ヲ牧ス可キ場所ハ傍ラ五穀ヲ刈終レル地苜蓿ヲ生スル地及ヒ人工ノ牧場是レナリ此三箇ノ地ヲ以テ其欠缺ヲ補フ可シサテ備

牧羊ノ事ヲ考察シ。其次之ヲ補フニ就テ。左ノ牧場ノ説ヲ述ベタリ。今爰ニ述ブル所ノ三箇ノ土地ハ。一年ノ間牧羊ニ用ヒ難ク。且人工ノ牧ニハ。廣大ノ平地ナキガ故ニ。牧場ノ一事ハ。別ニ委シク論述セズンバアルベカラズ。素^{モト}ヨリ人工ノ牧ハ。甚々廣大ナラザルモノナリ。是ニ因テ羊ヲ牧ス可キ場所ハ。牧野及ヒ五穀ヲ刈^刈終レル地。及ヒ苜蓿ヲ生スル地ニ限レリト爲ス。但シ此等ノ地ハ牧スルニ時限アリ。然リト雖。是ヲ除クノ外ハ。羊ヲ畜養シ難ケレバ。動^動スレバ。牧羊ノ一事ニ於テ。或ハ全ク怠惰ニ陥ル^アリ。何トナレバ。唯

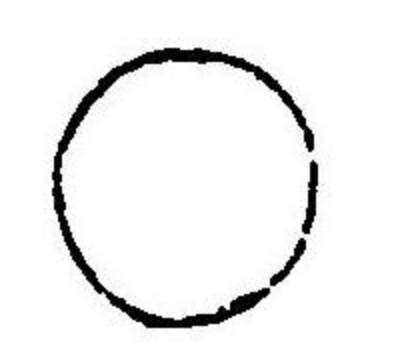
其カヲ費スコト多クシテ。其利益少ナキカ故ナリ。今爰ニ羊ヲ厩内ニ養フ事ニ於テ。大ニ進歩セシム可キ説ヲ論述セント欲ス。實ニ人工ノ牧場ヲシテ。廣大ナラシメント欲スルニハ。牧羊ヲ始ムルニ方リテ。其大ヒニ益アルヤ。否ヤヲ熟考シテ。預メ其算用ヲ定ムベキナリ。各種ノ羊ヲ畜養スルハ。其中ニ大ヒナル利益ヲ含蓄スルヲ以テ。蕃殖ヲ大ニセザレバ。其利益少ナシ。夫レ羊ヲ畜養スルニ會社ヲ設ケテ。羊ヲ畜ヘル總テノ費用ヲ算シ。并ニ其畜主ノ所持スル牧地ノ多少ニ關係シテ。畜フ可キ羊ノ數ヲ算スル時ハ。一箇ニシ

テ羊ヲ畜フヨリ。會社ヲ設ケテ畜フ事ノ益アルヲ知レリ。且又會社ノ羊ヲ總テ一所ノ小屋ニ集メテ畜養スル時ハ。其費用少クシテ。羊ヲ牧スルトニ於テ。其利益大ナリ。是等ノ事ハ。其土地ノ畜主ノ飼料ニ費ス所ノ價ヲ引キ去リ以テ。羊ノ員數ノ多少ニ應シテ。其遺殘ノ利益ヲ分配スル時ハ。其事理顯然タルヲ得ベシ。若シ羊ノ價非常ニ貴フシテ。買フ者少ク。一人ニシテ。更ニ羊ヲ牧セント欲スル時ハ。羊ノ員數多カル可カラス。是畜主ノ羊ヲ飼養スル價ヲ。牧時ニ關係シテ算ス可シ。而シテ此ノ如キハ。畜主其牧羊ニ費ス可キ各

箇ノ價ヲ十分ニ知り得可キ事ヲ肝要トナス。牧羊ノ事ニ付テ。猶未タ此等ノ所置ヲ十分ニ知ル者寡シ。故ニ猶未タ適宜ノ所置ヲ施サス。是ヲ以テ之ヲ論述スル者ナク。唯羊ヲ以テ犧牲トナストノミ知レルモノアリ。儲牧羊ニ適當ナル所置ノ中ニ。其毛。其肉ヲ養フトモ。亦理解シ得可シ。唯其毛ヲ養フヲ以テ甚難ト爲ス。是ハ財本ヲ費ヤサシレハ。其牧養モ亦至テ難シ。何トナレバ。通常ノ收納中等ノ細毛ヲ賣ルトキハ。得ル所ノ利甚タ大ナラズシテ。其牧羊ニ費ス所ノ價ヲ償フニ至ラザルカ故ナリ。故ニ價ヲ費ヤサスシテ。

羊ヲ牧シ以テ利益ヲ謀ラント欲スルニハ、多ク羊ヲ
 畜養セズンバアル可カラス。此羊ハ屠ル以前ニ、多ク
 其毛ヲ鋏ミ剪ルベク、且速ニ其肉ヲ肥シ其脂ヲ増サ
 シメ、其肉ヲ重カラシムベキナリ。故ニ肉ヲ肥スヲ以
 テ、今日ノ専務ト為サハ、其羊ノ價、以前畜養セル時ヨ
 リハ、高價ト為リ以テ其費用ヲ償フニ至ルナリ。故ニ
 嚮ニ飼養セル羊ノ肉ノ、其毛ヨリ價貴キ丁モ、亦前上
 ノ事件ニ因テ生スル所ナリ、而ノ牧羊ノ事ニ博カラ
 ガル者ニハ、此道理ヲ論述シテ、其肉ヲ肥ヤサシムル
 一事ヲ以テ、大眼目ト為サシムベキナリ。故ニ其飼養

ス可キ羊ノ種類ヲ撰擇スルヲ以テ、大眼目トナサシ
 メテ左ノ一ヲ論述ス



○ 畜養ス可キ羊ノ善惡ヲ撰フ事

○ 獨逸國ニ産スル羊ハ、其體大ニシテ、其毛ヲ鋏ミ剪
 ルニ便ナリ、而シテ其肉肥ル。佛蘭西列應イタル特垣ニ
 産スル羊ト同一ナリ、然ト虫モ此種類ノ羊ノ毛皮ハ
 其量輕キガ故ニ、是ヲ能ク養フニ甚タ難シ、且又其毛
 ノ輕重ニ拘ハラズ、羊ハ其齡ノ長スルニ從テ、終ニ

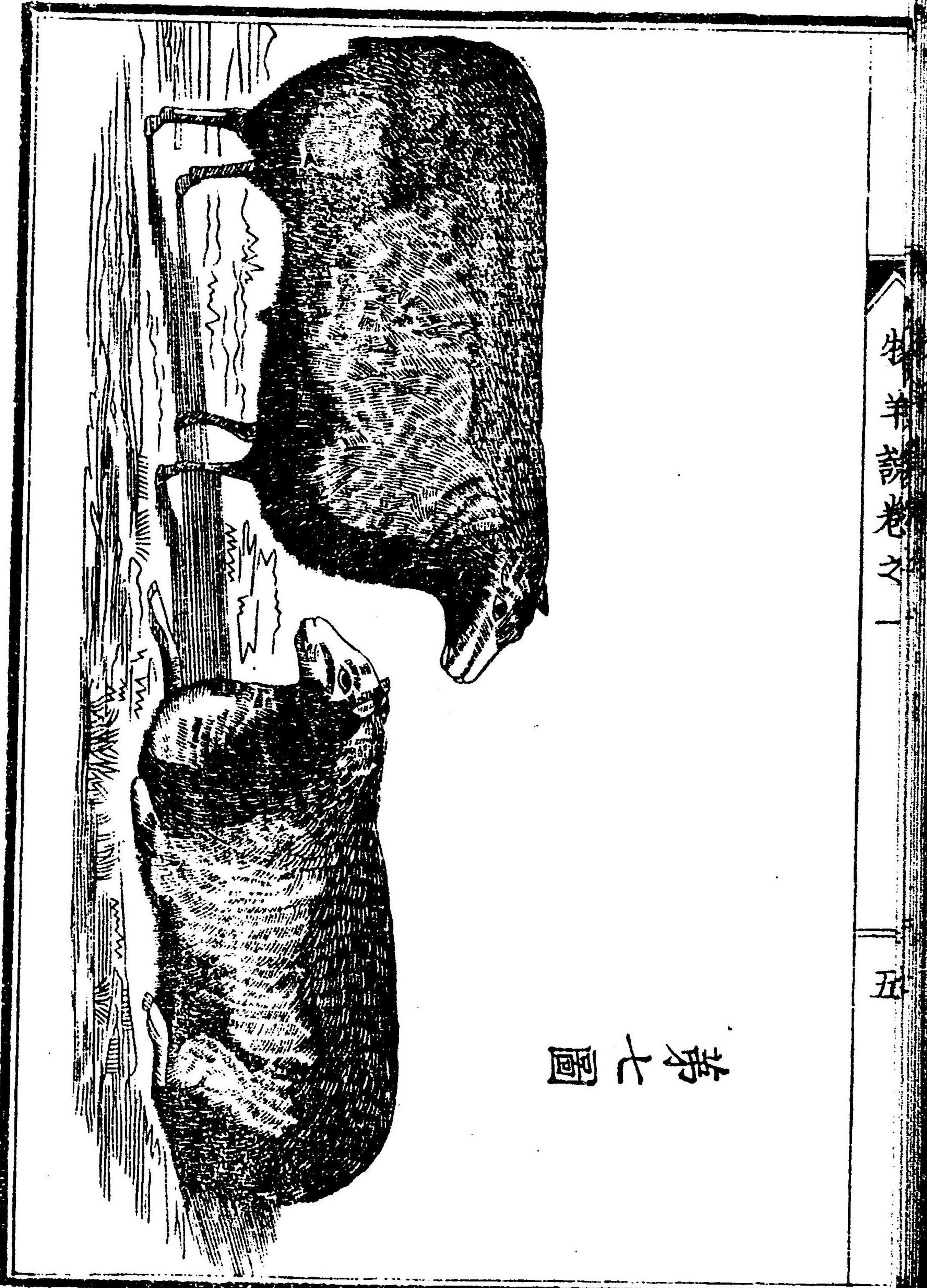
屠殺ヲ脱レ得難シ。是ヲ以テ其毛皮ヲ肥ス_トヲ必要ト為_ト。虫氏時アリテ、其毛皮ノ高價ニ賣レ難キ_トアルカ故ニ、其養方ニ於テモ、亦甚タカヲ尽サ_レレバ、其價ヲ貴フスル_ト難シト云フ可シ。

○上ニ載スル所ノ羊ノ種類ハ、他ノ良種ノ羊ト交合セシメテ、其質ヲ貴クス可シ。就中英_國ノ牡羊ト交ハラシムルヲ以テ、最モ良シト為ス。近世ノ發明ヲ以テ、本國ノ羊ヲシテ、ゾウトドウン、及ビライセス、テルニ産スル牡羊ト交ハラシムル時ハ、其蕃殖ニ於テ、良種ノ羊ヲ産スル_トノ基本トナル_トヲ知リ得タリ。此兩

地ノ羊ヨリ蕃殖ニ來レル羊ハ、良厚ノ毛ヲ生スルガ故ニ、之ヲ缺ミ剪ル_トニ於テ其利益アル而已ナラズ。猶又其速ニ成長スルヲ以テ、屠殺ニ具フル_トニ於テモ、亦速ナリ。故ニ此種類ノ羊ハ、本國ニ産スルモノヨリハ、容易ク肥大トナリテ其肉モ亦至テ良シ。

○佛國ニ産スル羊ヲシテゾウトドウン或ハライセスニ産スル所ノ牡羊ト交ラシムル時ハ、其目的ヲ達スルニ至ル可シ。(第七圖ヲ見ルベシ)

○蕃殖ニ適當シタル羊ヲ撰擇シテ、牝ト配合セシムル時ハ、其羊速ニ蕃殖ス。蕃殖ハ牝牝配合セシムルニ在リ。○儲羊ヲ蕃殖スル_トニ於テ、意ヲ用フル者ノ為ニ、特



第七圖

ニ要件ト為ス可キトハ高價ヲ出シ撰ヒテ牝牡ヲ買
ヒ以テ畜養ス可シ蕃殖ノ為ニ畜養スル所ノ羊ノ資
質ヲ變性セシムルニハ其幼ナルモノト老タルモノ
トヲ用フルト勿レ牝羊ハ其齡ニ至ラザレハ牝
ト交ラシメズ牝羊ハ一年半ニ至ラザレバ牝ト交ラ
シムルト勿レ若父羊母羊トモニ其齒脱落シテ漸々
ニ其産スル所ノ羊子モ亦微弱トナルニ至ラハ蕃殖
ニ具フルトヲ廢スベシ又老イザル強壯ノ羊ヲ畜フ
ト且牝羊ヲシテ其壯ナル時漫リニ牝ト交ラシメサ
ルトトヲ主意ト為シテ其牝ト交ラシムルモ亦五十

匹ニ過サルヲニ注意ス可キナリ。

○又蕃殖ニ用フル羊ノ父母羊ハ十分壯健ナルヲ要ス可シ。且其形狀ノ美ナルモノヲ採ル可シ。若シ其父母羊不具ノ資質アラハ^{オレベキタケ}力所及其資質ヲ受ケザラシメン^トヲ要スベシ。羊毛ノ^トニ就テハ其毛ノ緻密ナルモノヲ採ルベシ。何トナレバ蕃殖ニ用フル羊ハ其毛緻密ナレハ其粗ナルモノヨリ惡キ天氣ニ感觸スル^ト少キカ故ナリ。密毛ノ羊ハ其飼養至テ難シ。然リト雖モ其畜養宜シキヲ得レハ其價モ亦從テ貴キニ至レバナリ。

○目今至老ノ羊ト未タ成長セザル羊ト病羊及ヒ父母羊ノ不具ノ資質ヲ受タル薄毛ノ羊トヲ以テ蕃殖ニ用ヒント欲スルニハ其牝牡配合セシムル^トニ方テ群羊中ニ就テ能ク最上ノモノヲ吟味スベシ。總テ此ノ如キ羊ハ其形貌瘦タルガ故ニ買フ者少ナシ。故ニ是ヲ肥ス可キ^トヲ勉メザル可シ。爰ニ載スル等ノ廢疾アルモノハ其穿鑿ヲ遂ク可キ^ト必要ナリ。備此方法ヲ施シテ以テ羊ヲ蕃殖スル良法ヲ得ベシ。
○若其母羊皆薄毛ナラハ是ニ配スル牡羊ハ特ニ密毛ノモノヲ撰フ可シ。是レ此牡羊ノ為ニ漸々ニ不具

ノ薄毛ノ資質ヲ變性シテ。終ニ他ノ羊ト同一ナラシ
 メシトヲ欲ス可シ。儲漸々ニ其毛密ナルニ至ル時ハ。
 其價モ亦從テ増加スルニ至ルナリ。是ヲ變性セシム
 ルニ要用ノ方法ヲ得ザル時ハ。唯其毛ノ漸々ニ増加
 スルト共ニ。其肉ノ肥ルトヲ以テ足レリトスベシ。而
 シテ唯其規則ニ從ヒ。密毛同一ニ叢生スルヲ以テ眼
 目トナス可シ。是等ノ諸件ハ。大家ノ牧羊家ノ為セル
 事ニシテ。唯羊毛ヲ養成シ。カ所^{カ所}及是レヲ高價ニ賣ラ
 シトヲ欲スルノ法ナル可シ。

○蕃殖ニ用フル羊ヲ撰擇シタル時ハ。先ツ豫メ其羊

子ヲ産ム時日ノ遲速ヲ算スヘシ。特ニ肥タル羊ヲ蕃
 殖ニ用フレハ。其分娩ノ期遲キモノモ第三月ノ末^{(此}
 等ノ羊ハ。第十一月ニ交合シタル者ナリ)ヨリシテ。其
 分娩ノ期ニ至ルトヲ前知スヘシ。冬日ノ分娩ニ比ス
 ルニ。春日ノ分娩ハ。大ニ利益アリト云フトヲ左ニ述
 フ。

○第一

○第三月ニ産スル羊子ハ。直ニ其母羊ト共ニ。牧場ニ
 放タシムルカ故ニ。其食ニ飽クトヲ得可シ。冬日ハ牧
 草ニ乏シキ時節ナレハ。豫メ多分ニ食料ヲ貯蓄シ置

キ以テ羊ノ食ニ供セシム可シ。

○第二

○羊子ノ飼養ニ丁寧ヲ竭シテ取扱フ時ハ速ニ成長ス可シ。

○第三

○羊子ハ常ニ健康ナルヲ得ベシ。何トナレバ其幼時ヨリ新鮮ノ氣中ニ逍遙スルヲ得ルガ故ナリ。譯者按子羊ハ常ニ牧場ニアラシムルガ故ナリ。

○第四

○分娩ノ遅キ羊ハ其成長速ニシテ已ニ冬日ノ始メ

ニ至レハ分娩ノ早キモノニ追及シ且其母羊ノ傍ヲ離ル、モ亦至テ速カニシテ分娩ノ早キモノニ過キタリ

○牝期已ニ至ル時ハ是ヲ別所ニ入レ置キ其牝牡皆交合セシムルニ至ル迄牝羊ヲ盡ク別所ノ小屋ニ入レ置キ是ニ配スル牡羊ト相別ツヲ以テ最良ト為ス但此交合終レハ牝牡又相別テテ別所ニ入レ置ク可シ。

○牝期ニ及テ牡羊ト群居シ恣ニ交合スルハ特ニ其羊ノ價ヲ賤フスルニ至ルナリ何ナレハ牡羊ハ大ニ

精神ヲ費耗スルカ故ニ。或ハ其期ニ及テ。蕃殖ニ用ヒ
難キヲアリ。且其産ム所ノ子羊毛。亦成長シ難キヲア
レハナリ。此ノ如キ方法ヲ以テ。交合セシムル時ハ。其
産ム所ノ子羊ノ體格。及ヒ其毛毳ヲ美ナラシムル
ニ於テ。甚タ困難ナルガ故ナリ。

○牝羊ノ懷孕及ヒ羊子ヲ産ム事

○牝羊懷孕中ハ。其取扱方能ク行届カシメテ。艱苦セ
シメザルヲニ。注意ス可ク。且其飼養モ。亦力所^{ナルベキ}及行届
カシムベシ。此外牝羊ノ健康ヲ害ス可キ諸件ハ。預メ
其防キヲ為ス事肝要ナリ。則チ炎熱ノ天氣ト。大寒ノ

日トハ。驅逐厩使スルヲ勿カル可シ。特ニ懷孕セル羊
ハ之ヲ肥ス^テ至テ難シ。懷孕セル牝羊ノ害トナル可
キ諸件ハ。實ニ腹内ノ子羊ニ波及ス可キ事ヲ考察ス
可シ。

○牝羊分娩ノ期近キニ至ラハ。小屋ノ内。若クハ牧場
ニ在ルモ。亦其救助ヲ為サ^ル可カラス。若其難産ナ
ル時ハ。速ニ助ク可シ。此時其頭ヲ真直^ニ向ケテ。其足
ヲ引ク可シ。

○牝羊牧ニ在テ。子ヲ産スル時ハ。常ニ直ニ牧僮ヲ附
置キ。日暮ニ及ブ迄。是ヲ保護セシメテ。其害ニナル可

キヲ防ガシメ、而シテ後ニ小屋ノ内ニ、荷ヒ来ラシム可シ。

○羊子ヲ養育スル事

○牝羊分娩ノ期ニ至レハ、木枝ヲ以テ笆籬ヲ編ミ、其小屋ヲ、各箇ニ分割シテ、場所ヲ限リ、懷孕セル牝羊ヲ其中ニ入レ置ク可シ。牝羊子ヲ産マハ、母子同シク一ツノ小屋ノ中ニ入レ置キ、母羊ノ乳房ノ毛ヲ抜キ去リ、其子ヲシテ、乳汁ヲ吸フニ便ナラシム可シ。

○羊子産レ出ル時、是ヲ助ケサレハ、十分其母乳ヲ吸フニ能ハス。母羊其子ヲ愛セズシテ、乳ヲ授クルヲ

嫌ハ、羊子ヲ助ケテ、母乳ヲ吸ハシム可シ。是ヲ以テ羊子ノ母乳ヲ吸フヲ知ルニ至ル迄ハ、必ラス助ケテ其乳ヲ吸ハシム可シ。母羊ノ其子ニ乳ヲ授クルヲ嫌フモノハ、羊子ノ母乳ヲ吸フ時間、(凡ソ毎日四度)是レヲ捉ヘ置キテ、其乳ヲ吸ハシム可シ。羊子ノ母乳ヲ吸フハ、必要ノ事ナルカ故ニ、頑固ノ母羊ハ、其子ノ乳ヲ離ル、ニ至ル迄、助ケテ母乳ヲ吸ハシム可シ。

○爰ニ一匹若クハ二匹ノ羊子アリテ、其母羊ヲ亡フ時ハ、孤羊ヲシテ、他ノ母羊ノ乳ヲ吸ハシメテ、養育セシム可シ。此母羊ハ、其子ヲ亡フモノヲ以テス可シ。備

マタ母羊ヲ亡フ羊子アリテ羊子ヲ亡フ母羊無キ時ハ其孤羊ニ微温ナル牛乳若クハ山羊ノ乳汁ヲ與ヘテ以テ養育スルノ外他ノ策ナシ孤羊ニ其乳汁ヲ飲マシムル法ハ鐵葉ブツキ製ノ皿ニ乳汁ヲ入レテ孤羊ノ自ラ吸フニ至ル迄ハ助ケテ吸ハシム可シ。

○各箇ノ母羊ト羊子トヲ相分チテ小屋ニ入レ置ク要旨ハ母子相愛シテ他ノ羊子ニ其乳ヲ吸ハシメ難キカ故ニ此ノ如ク相分チテ入レ置クナリ。

○母羊其子ニ乳ヲ授クルト多カラス其子モ亦軟弱ナラサルトヲ知り得ル時ハ直ニ羊子ノ齡ホト畧同一ナ

ルモノヲ聚メテ母子同シク大ナル小屋ノ内ニ入レ置ク可シ若羊子ノ生日頗ル差異アラハ是ヲ入レ置ク可キ小屋モ亦分割スベシ則チ其方法左ノ如シ。

○三週間ニ産レタル羊子ハ其小屋ヲ分ツモ亦三箇所ト為ス可シ而シテ各箇ノ小屋ノ中ニハ同週間ニ産レタル羊子ヲ入レ置ク可シ。

○此ノ如ク母子相分チテ小屋ノ中ニ入レ置クハ先ソノ子ヲシテ母子相離ルトヲ習慣セシムル趣意ナリ。諸羊子軟弱ニシテ久シク母羊ノ傍ニ在ラシメズンハ有ル可カラザルモノ、如キハ特異ノ習慣ヲ得

セシム可シ。此等ノ羊子ハ、其滋養ニナル可キ乳汁ヲ、
多ク吸ハシムルヲ必要ト為スガ故ニ、久シク其母
羊ノ傍ニ在ラシムルヲ要ス。

○羊子産レ出レハ、一月内ニ是ヲ分ツ事左ノ如シ。儲
其生時早クシテ、強壯ナルモノハ、是ヲ一所ニ聚メテ、
小屋ノ中ニ入レ置ク可シ。其生時遅クシテ軟弱ノモ
ノモ亦一所ニ聚メ小屋ノ中ニ入レ置ク可シ。是レ軟
弱ノ羊子ハ強壯ノ羊子ニ窘迫セラレザルヲ為メ
ナリ。且強壯ノ羊子ヲ産スル母羊ニ比スレハ、軟弱ノ
羊子ヲ産スル母羊ノ其子ヲ養育スルニカヲ盡サシ

メントノ為メナリ

○羊子ニ乳汁ヲ授クル母羊ハ、常ニ小屋ニ於テ飼養
シ。其食料ニハ、軟ラカナル枯草ヲ與フルヲ良トス。又
夏日生スル穀物ノ藁ハ、其食料ニ與ヘテ最モ良シ。其
食ハ多ク食シム可シ。是其母羊ニ十分飽カシメテ以
テ、其子ニ多ク乳汁ヲ吸ハシメンガ為ナリ。

○羊子健康ニシテ、成長スル時ハ、通例第三週則チ其
成長ノ期ニ至リテ、其母羊ニ與フル枯草ヲ自カラ食
ムニ至ル可シ。此時ニ及テ、羊子ヲ箇々相分チテ、別ニ
小屋ニ入レ置ク可シ。此小屋ハ、一條ノ隘路ヲ開キテ、

牧羊ノ小屋ニ通セシム可シ。又羊子ヲ入ル、小屋ノ中ニハ、別ニ低キ小屋ヲ設ケテ、早朝先ツ此小屋ニ於テ、食物ヲ食シム可シ。最モ其日午及ヒ日夕ニ與フル食物ハ少量ヨリ始メ、漸々ニ是ヲ増加ス、ハシ。此食物ハ細カニシテ葉多ク、和ラカナル牧草ヲ與フルヲ以テ、最モ良トス。食ヲ與フル時刻ニ至レハ、此隘路ヨリシテ、食事小屋ニ羊子ヲ追ヒ入ル可シ。羊子ニ多ク食シムルヲ習慣セシム可キ時ニ至リ、速カニ成長セシメ以テ其利益ヲ謀ラント欲スルニハ、多ク食物ヲ與ヘズンバ有ル可ラス。若シ羊子ニ食物ヲ與フルト雖

モ、速カニ成長セザルモノモ、亦是時ニ至レハ、母羊ノ側ヲ離ル、ニ至ルナリ。

○羊子成長シテ、四週若クハ六週ニ至レハ、儘其畢丸ヲ切ル可キモノアリ。是等ノ牡羊ハ、蕃殖ノ牡羊ニ用ヒ難キカ故ニ、其陰具ヲ切り去ル可シ。但蕃殖ニ用フ可キ母羊ト父羊トノ如キハ、長サ二寸其尾ヲ切テ以テ蕃殖ニ用フルヲ徴ス可シ。

○借羊子ノ齡八週ニ至ラハ、各箇ニ小屋ニ入レ置ク可シ。是ヲ入替ルハ、突然ニ為スヲ勿ル可シ。但幼ナル羊ハ、長セル羊ト區別シ、而シテ其乳ヲ吸フ時刻ヲ漸

々ニ減少ス可シ。羊子ニ乳ヲ授クルヲ止ルノ期近
ヅカバ、其時刻ヲ短カクシテ、毎日唯一度ト定ム可シ。
而シテ後ニ終ニ其母乳ヲ全ク吸ハスルヲ勿ル可シ。
此ノ如ク羊ヲ入替タル後ハ、羊子ヲシテ、母羊ノ傍ヲ
遠クルヲ、大凡ソ其時間毎日一時ナル可シ。是其子母
憐愛ノ情ヲ薄フセンカ為メナリ。

○上ニ述ヘタル方法ニ基キテ、早ク産ル、羊子ハ、其
産レタル時節ニ於テ、畜養ヲ遂ク可シ。早ク産ル、羊子ハ、其母羊第
三月第四月ニ交合シタルモノナレバ、二十週若シク
ハ二十ニ週ニシテ産ル、則チ百四十日或ハ百五十四
日ニシテ産ル、而シテ其遅ク産ル、羊子ハ、牧野未タ開
ル、ナリ。

ケザル時節ニ、其畜養ヲ遂グ可シ。サテ備遅ク産ル、時節
第三月第四月ノ頃ナレハ、則チ牧野ノ開ケル時ナル
カ故ニ、羊子ヲ畜養スルヲ至テ容易シ、而シテ其子モ、
亦十分壯健ナル時ハ、父母羊ト共ニ牧野ニ縦遊シテ、
十分成長スルニ至ルナリ。

○夫レ牧ニニアリ、則チ天然ノ牧場ト、入工ノ牧場ト
ナリ、而シテ此ニ箇ノ牧場ハ、アキホ雨ヲ、羊ノ小屋ヲ近傍ニ
設ケ做シ、而シテ須ク乾燥ニシテ、甘美ノ牧草繁茂ス
ルヲ良シトス可シ。羊子此牧場ニ於テ、牧草ヲ飽啖ス
ルカ故ニ、オカ偶母羊ノ是カ為メニ其食ヲ可キ牧草減少

シテ困スルコトアリ。但羊子ハ此ノ如ク牧草ヲ飽啖スルカ故ニ速ニ成長シテ強壯ノモノトナルナリ。

○羊子ヲ各箇ニ區別シ而シテ後ニ其産レタル時節ニ應シテ畜養モ亦自ラ同シカラス。晚ク産レタルモノハ速ニ牧ニ放ツ可ク早ク産レタルモノハ牧場未タ開ケザル時ナレハ其間小屋ニ於テ畜養ス可シ。小屋ニ入レ置ク間ハ毎日其食事ヲ三度ト定メテ甘美ノ枯草ヲ食シム可シ。且其一度ハ穀類ヲ食シム可シ。但シ豌豆ヲ與ヘテ十分ニ飽シムルコト極メテ良シ。

○又蕃殖ニ用フル牡羊ノ齡八箇月ニ至ラハ牝ト交

ラシム可キカ故ニ他ノ羊子ト區別シ置ク可キナリ。
○羊ヲ飼養スル事

○羊ヲ飼養スルニ二様アリ。其一ハ牧養、其一ハ屋養。
○牧養ノ事

○夫レ牧ヲ初ムルト廢スルトノ二事ハ大ニ天氣ニ關涉スルヲ以テ特ニ一定シ難シ。然リト雖春ニ及ヒ。牧草豐饒シ羊ヲシテ十分飽食セシムルコトニ至ラザル以前ハ牧ヲ開クコト無シ。是ヲ一定ノ規則ト為ス。妄リニ羊ヲ牧ニ放チテ縱遊セシムルハ益無クシテ却テ牧場ニ害アリ。且其羊毛ノ爲メニ大害アリ。又秋ニ

至リ。霜露降りテ。牧草枯死シ。天氣寒冷トナルニ至ラハ。速ニ牧ヲ廢ス可シ。

○冬日ノ屋養ヨリ。牧養ニ移リ。又牧養ヨリ。屋養ニ移ル時間ハ。漸々ニ及ボスヲ良シトス。當初^{ソノハジメ}牧ヲ開クヨリ。是ヲ廢スルニ至ル迄。多少ノ時間。必ラス小屋ノ中ニ入レ置キ。少^{スコミ}許リノ乾糧ヲ與フ可シ。

○最初ニ開ク可キ牧ハ。牧草繁茂セル牧野ヲ以テ。最良ト為ス。是ヲ牧ニ放ツモ。亦晴日ニ放ツ可シ。夫レ羊ヲ牧ニ放ツ事ニ於テハ。春日天氣暖和ニシテ。牧草大ニ成長スル頃ニ至リ。牧ヲ廢シテ開カザレバ。是レ大

ニ損害アリ。牧養ニ於テ。其時節ノ甚タ後レタルモ。第五月ノ始メニ至ラハ。必ス開ク可シ。牧草繁茂シテ。牧養ニ適宜ナル時節ハ。第四月ノ二十日ト為ス。但シ此頃ニ至レハ。必ス牧養ヲ始ム可シ。

○牧養ニハ。天然ノ牧野最良シ。且此牧野ニ羊ヲ放ツハ。晴日ニ放ツ可シ。是レ天然陰濕ナル時ハ。羊モ亦牧草ヲ飽啖セサルガ故ナリ。天然ノ牧野ニ生スル羊ニ害アル草ハ。牧人ニ命シテ除キ棄^{ステ}レム可シ。且土龍ノ堆土。蟻窟等其害トナルモノハ。總テ是ヲ埋修セズンハアラル可カラス。

○牧野高燥ノ地ニアルモノハ屢々牧ニ害アルトアリ。或ハ天氣炎熱ニシテ乾燥ナル時ハ牧ニ害アリ。此ノ如キ時ハ羊群ノ多寡ニ應シテ別ニ多少ノ耕地ヲ開テ牧場ト為ス可シ。

○天然ノ牧野ニ放テル群羊若シ其食ヲ可キ牧草不足ナル時ハ別ニ人工ノ牧場ヲ設ケテ其不足ヲ補フ可シ。人工ノ牧場ハ其地質ニ從テ撰ヒ設ク可シ。又多クノ羊ヲ牧スルハ地質ヲ撰ヒ各其地質ニ應シテ雜草ノ種ヲ混合シテ蒔ク可シ。

○畜養ノ方法ニ刈残リノ穀類ヲ再ヒ刈来テ与フル

ハ食料ノ不足ヲ補フ一法ト為スト云ヘリ。但シ刈残リノ穀類ハ其分量ニ際限アルヲ以テ久シク其食料ニ供シ難シ。是レ其食料時アリテ欽乏シタル時ハ預メ其食料ニ充ツ可キ牧場ヲ具ヘ置ガル可カラズ。穀類ヲ刈残セル場所ハ羊ノ食料ニ具フルト雖其地ニ萌生スル牧草ノ羊ニ害アリト否シカラサルトヲ撰ブモ亦肝要ナリ。

○牧羊ノ土地ハ苜蓿クローバーヲ生スル土地ヲ以テ最良トス。苜蓿ハ羊ノ食料ニ用ヒテ滋養分至テ多シト虫若シ自汗シ或ハ其腹空虚ナル時ハ專ラ注意シテ是ヲ飽食

セサラシムベシ。故ニ首着ヲ生スル牧ニ久レクノラ
シムルハ飽食ノ恐アリ。且ツ久レク働カシムルハカ
ヲ勞スルノ恐レアルガ故ニ。此ニ事ニ注意スルヲ
要ス。若シ此方法ニ基キテ、其食料ノ分量ヲ定メサル
時ハ、其飽食スルヲ以テ、大ナル損害ヲ生スルニ至ル
ベシ。

○時アリテ、穀類甚ク成長シテ、羊ノ牧草ヲ過食シテ
却テ其害トナルヲアリ、是レ之ヲ防クニ若シ牧草ヲ
刈リ取ラサレハ、害アルガ故ニ、速ニ羊ヲ他ノ牧ニ放
ツ可シ。此牧ハ、極メテ其畜養ニ適シテ母羊ヲ畜養スル

ニモ、亦甚ク適當スル牧ヲ用フ可シ。但シ此牧穀物ノ
種ヲ下スニ害ナク、且ツ飼養スル羊ノ為メニモ、亦害
ナケレハ、極メテ有益ノト云フ可シ。天氣乾燥シテ
寒冷ナル時、若クハ、乾燥ノ土地ニ於テ飼養スル時ハ、
必ラス羊腹ヲシテ空フセシムルヲ勿レ。且又大ニ飽
シムルヲ勿レ。コレ之ニ注意シ、此ノ如キ牧ニ在ラシ
ムル間ハ、常ニ其體ヲ運動セシムルヲニ於テモ、亦注
意ス可キナリ。

○爰ニ羊ヲ牧ニ放ツヲニ於テ、三思ヲ費シ、以テ連日
ノ陰雨ハ、羊ノ牧草ヲ食ニ、大ニ害アルヲ考ヘタリ。

連日ノ陰雨ニ羊ノ飢ニ至ルヲ慮リテ、預メ其食料ヲ具ヘ置ク_一ニ注意ス可シ。此食料ハ、夏日稔レル穀物ノ藁ヲ器ニ盛リ其分量ヲ定メテ、羊ニ與フ可シ。其牧ニ在ル間、若シ牧草乏シキ時、預メ不時ノ要_要ニ應スルカ為メニ、乾糧ヲ貯蓄シ置ク可シ。是其羊久シク飢ユル時ハ、身體疲瘦シテ、其毛ヲ鋏ミ剪ル_一其量多シト雖、其品良カラサルヲ以テナリ。

○已ニ前條ニ述フル規則ノ外、羊ヲ牧ニ放ツ_一ニ於テ、左ノ_一ニ注意ス可シ。

霜露未タ乾カス、朝霧未タ晴レザル間ハ、羊ヲ牧ニ

放ツ_一無カル可シ。且又日暮ニ至レハ、夕露未タ降ラサル以前ニ、小屋ノ中ニ入レシム可シ。

當_當初羊ヲ牧ニ放ツ時、牧ニ十分未タ羊ヲ養フニ適ス可キ牧草無ケレハ、先ツ小屋ニ入レ置キ、乾糧ヲ與ヘテ以テ飼養ス可シ。

午天甚タ熱スル時ハ、羊ヲ日影中ニ入レテ、休息セシム可シ。

毎日牧ニ放ツ以前ニ、羊ニ水ヲ與ヘテ、飲シム可シ。○或ハ家ニ在リ、若クハ途中、又ハ牧ニ在ル時、羊ニ水ヲ與フルハ、清浄ノ水ヲ與フ可シ。必ラスシモ、溝中ノ

水ヲ與フルト無ル可シ。

○牧ニ多ク羊ヲ放ツ可カラス。若シ多ク放ツ時ハ、適宜ニ飽食スルト得ザラシメ、且ツ是レカ為メニ、牧場ノ牧草ヲ成長セザラシムルトアリ。然リト雖、牧ニ羊ヲ放ツ極メテ寡キモ亦不可ナリ。何トナレハ、牧草ハ、食ム所ノ羊ノ多少ニ應スルヲ以テ、其羊ノ負數至テ寡ナケレハ、牧草空シク茂生シテ、却テ牧ノ害トナルトアリ。羊ヲシテ食シメズ、空シク茂生セル牧草ハ、其實落下シテ後再ヒ萌生シ、是カ為メニ、大ニ牧ノ害トナルトアリ。

○此害ヲ防ガント欲セハ、總テ天然ノ牧、人工ノ牧ヲ論ゼス、皆分劃シテ、其牧ヲ分ツ可シ。偕サテ此牧ニ放ツ所ノ羊、十分其牧草ヲ食ヒ盡サハ、更ニ復マタ別所ノ牧ニ放ツ可シ。此方法ヲ施シテ以テ、良好ノ牧場ヲ成就シ、就テ又牧草ニ欠乏無キトニ至ル可シ。

○羊ヲ牧ニ放チ、若クハ、牧ヲ出ス時、嚴シク逐フト勿レ、嚴シク逐ハサレハ、牧犬敢テ是レヲ咬マス。牧犬咬マサレハ、其毛ヲ損害スルト無シ。

○別ニ柵ヲ設ケテ羊ヲ入ル、ハ、地ノ乾ケル日ト、天氣朗晴ニシテ、暖和ナル日ヲ伺テ、其中ニ放ツ可シ。若シ

羊ヲシテ、濕地上ニ在ラシムルカ。若クハ又天氣甚々
惡シキカ。若クハ寒風烈シク吹ク時ハ、其健康ヲ害ス
ル而已ナラス。猶又其毛ヲ害スルカ故ニ、美日ヲ待テ
以テ柵ニ放タシム可シ。

○冬日屋養ノ事

○秋ニ至レハ、牧ヲ廢シテ、羊ヲ屋養セズンバアル可
ラス。此時其種類ト年齢トヲ分チテ、各箇ニ場所ヲ分
割シテ、其中ニ入レ置ク可シ。儲群羊ヲ入レ置ク場所
ヲ分チテ三ト為ス。第一母羊ヲ入レ置ク場所、第二畢
丸ヲ切りタル牡羊ヲ入置ク場所、第三幼羊ヲ入置ク

場所。羊子若クハ一年成長セル羊子、各箇ノ羊ヲ、其中
ニ入置キ、其種類ニ應シテ、適宜ニ畜養ス可シ。蕃殖ニ
具フル牡羊ハ、畢丸ヲ切レル牡羊ヨリ、其畜養ニ專ラ
カヲ盡ス可キナリ。故ニ牡羊ヲ入置ク場所モ、亦各箇
ニ區分ス可シ。

○冬日ノ屋養ニ於ケル、大ニ屋ノ造營ニ關涉スル
アリ。何トナレハ、屋ノ造營ハ、實ニ羊ノ健康ニ關カリ、
且其毛ノ成長ニ關カレハナリ。羊屋ハ、十分廣濶ナル
可シ。其一ハ、屋内ヲ各箇ニ分割スルト、群羊ノ雜居シ
テ、其毛ヲ損スルヲ防クト、其三ハ、食時ニ方リテ強

壯ノ羊ノ軟弱ノ羊ヲ困窘スルヲ防クト。且軟弱ノ羊
子ヲ産スル母羊ハ、強壯ノ羊子ヲ産スル母羊ヨリ、其
子ノ養育ニカヲ盡サシムルト。其屋内ニ惡シキ臭氣
ノ蒸發スルヲ無カラシムルト。其四ハ、屋内ヲ潤クシ、
以テ牧者ノ羊ヲ取扱フニ便ナラシムルトナリ。其他
屋内ニ入置ク羊ノ多寡ニ應ジテ、屋ニ窓ヲ設ケテ十
分ニ明朗ナラシム可シ。屋内暗ケレハ、其羊成長セザ
ル而已ナラス。其毛毳ノ為メニモ、亦害アリ。羊ノ畜養
ハ、必要ノ事ナリト雖、善ク此事ニ注意スル者少ナク
レハ、終ニ是カ爲メニ、屋内ノ操作ニ、妨害ヲ生スルヲ

アラシム。羊屋ハ、乾キテ濕氣無キヲ良シトス。若シ濕
氣アル時ハ、羊ノ健康ヲ害シ、且其毛毳ヲ惡クス。羊屋
内ハ、生氣ノ流通ヲ善クス可シ。何トナレハ、善ク生氣
ヲ屋内ニ通スルハ、羊ヲシテ健康ナラシムル而已ナ
ラス。猶且其成長ニ効能アルカ故ナリ。且又生氣ヲ屋
内ニ通スルニハ、其天井ノ側壁上ニ於テ無数ノ孔穴
ヲ作り、此孔ヨリシテ生氣ヲ流通セシム可シ。且又屋
内ハ、温度ノ適宜ナルヲ良トス。夏日ハ炎熱ナラザル
可ク、冬日ハ寒氣嚴烈ナラザル可シ。故ニ夏日ニ於テ
ハ、善ク風ヲ通シ、冬日ニ於テハ、窓戸ヲ閉ツ可シ。羊屋

ノ地板ハ善ク密接シテ罅隙アラサラシム可シ是其食フ所ノ枯草ノ實ノ其底ニ落ちサルガ為ト、其食散乱シテ羊毛ヲ汚黥スルヲ防クカ為トナリ、且又屋内ニ水ヲ引ク可シ、若シクハ又小流ヲ導キ入ルモ、亦可ナリ、此ノ如ク水ヲ屋内ニ導クハ、羊ヲシテ水ヲ飲ムニ至テ便ナラシムルカ為ナリ、(各箇ノ水槽ヲ設ケ置クモ、亦可ナリ)

○格子ヲ設ケ做セル秣槽ハ、屋壁ニ掛ク可シ、何トナレハ、二重ノ格子ヲ設ケタル秣槽ヲ用フルヨリハ、屋壁ニ掛クル秣槽ハ、羊ノ食フニ便利ニシテ、且食フ時

其秣ノ羊毛ヲ汚黥スルコトナシ、是ヲ以テ羊毛ノ汚ルト、羊ノ飽食ヲ防クハ、格子ヲ設ケタル秣槽ヲ高ク壁上ニ掛ケ置キ、羊ヲシテ仰テ食シム可シ、此秣槽ノ格子ハ、互ニ相去ル濶カラス、適宜ノ距離アル可シ、是レ其食フニ方リテ、秣ノ落ルヲ防クカ為メナリ、
○群羊ヲ各箇ニ區別シテ、入置ク可キ羊屋ノ近傍ニハ、其羊ノ多寡ニ應シテ、冬、日ノ要ニ供スル食糧ヲ適宜ニ具備シ置クコトヲ要ス可シ、

○羊ノ食糧ニ供スル適當ノ食糧、左ノ如シ、

枯草、牧場ニ生スル二番草、苜蓿ノ枯草、

リユピ子和名クヨウノ枯草 枯葉 藁 馬鈴薯

蕪菁 穀類 油餅

但シ枯草蕪菁藁ノ如キハ何レノ羊屋ニ於テモ必要ノ食料ナリ而シテ其牧廣濶ナラザル場所ニ於テハ是等ノ乾糧ニ不足ナルカ故ニ馬鈴薯蕪菁穀類油餅ヲ以テ是ヲ補フ可シ

○馬鈴薯及ヒ蕪菁ヲ細カニ切切之或ハ是ニ切リ藁ヲ混シテ与フレハ其滋養ニ於テ効能無キニアラス然リト虫須要ノ食料トシテ用フルヲ無カル可シ何トナレハ羊ノ滋養ニ与フル食品ニハ是等ノ品ヨリ一

倍滋養ニ効能アル食品ヲ與ヘズンバアル可カラザレバナリ其滋養ニ効能アル食品ヲ與フル時ハ速ニ其成長スルヲ以テ其蕃殖ニ費ヤス價ノ息ヲ減スルニ至ル可シ蕪菁ノ根ハ日々其食時ニノミ與フ可シ○又一説アリ穀類又ハ油餅ヲ與ヘテ以テ羊ヲ養フ時ハ其費多ク且ツ其食料夥多ナリト雖モ羊毛ヲ美ナラシムルニ至ラス已ヤヲ得ズシテ或ハ油餅ヲ以テ畜養スルヲ要スル時ハ其穀類ハ破碎シ切リ藁ヲ混和シテ與フ可シ但シ油餅ハ水ニ浸シテ溶解シ此水ニ切リ藁ヲ濕メシテ與フ可シ

○良好ノ食料ニハ、藁、枯草及ヒ牧場ノ二番草ヲ混合シ、其分量ヲ定メテ、其羊ヲ畜養ス可シ。此ノ如キ時ハ、其高價ノ滋養ニナル可キモノヲ以テ養フコトヲ要セス。然ト雖モ、此事ニ就テハ、預メ枯草ト、二番草ハ、藁ト其質ヲ同フセサルコトヲ知ル可シ。枯草ハ、其滋養ニ効能アリ、故ニ花時ニ於テ是ヲ刈取ル可シ。且酸味ヲ含メル草、粗雜ノ草ヲ撰ヒ除キテ、一ツニ合シテ、其食料ニ具フ可シ。牧養ニ於テ、述ル所ノ食料ハ、苜蓿、枯草、及リユビ子和名ノ枯草ヲ以テ、最良シトス。但シ其初メハ、大量ニ是等ノ枯草ヲ食ハシム可カラス。何ト

ナレハ、多食スル時ハ、其食消化シ難ケレバナリ。

○又乾葉ハ、羊ノ食料ニ用ヒテ甚良シ。乾葉ヲ取リ、是ヲ貯ヘ置カズンハアル可カラス。何トナレハ、乾葉ヲ與ヘテ以テ枯草ノ費ヲ補フ可ク、且フ乾葉モ亦羊ヲ健康ナラシムルコトニ於テ、甚タ効能アレバナリ。

○藁ヲ用フルニ、羊ノ滋養ニナル可キ食料ニハ、豌豆ノ莖ヲ用フルコト最モ良シ。豌豆ノ莖ハ他草ノ莖ヨリ其滋養分至テ多ケレハナリ。羊ハ甚好シテ燕麥ノ藁、及ヒ裸麥ノ藁ヲ飽食ス。然ト雖モ、藁ヲ以テ須要ノ食料ト為スコト勿レ。何トナレハ、藁ハ其滋養分頗ル少シ。

是ヲ以テ必ラス高價ノ滋養ノ效能アル食料ヲ以テ之ヲ補フ可シ。

○冬日ノ畜養ハ、多ク食料ヲ貯フルヲ以テ必要トナス。是レ羊ヲシテ、常ニ其食料ニ過不及ナカラシムル可キトノ為メト。且其艱苦ヲ受ケザラシムルガ爲メトナリ。何トナレハ、是等ノ害ハ、羊ノ成長、健康、及ヒ其毛ヲシテ、美ナラシムルトノ三箇條ニ關涉スルカ故ナリ。

○冬日ノ畜養ハ、五箇月ニ過キザル可シ。此時若シ其食料ニ欠乏ナケレハ、此方法至テ良シ。何トナレハ、秋

ニ至レハ早ク牧ヲ廢シ、春ニ至リ、遅ク牧ヲ初ムル。常ニ變異アルトナケレバナリ。若シ春ニ於テ、牧場未タ開ケザル時、其食料之シケレハ、羊ヲシテ飢シムルガ故ナリ。故ニ冬日ノ畜養ヲ以テ、六箇月ト定メタルハ才智アル所置ト云フ可シ。若シ冬日ノ食料多分ニシテ、遺殘ノモノアラバ、是ヲ以テ餘分ノモノト為ス事勿レ。蓋シ秋ニ至リ、牧ニ糧草乏シキ時、是ヲ以テ、其用ヲ便ス可シ。

○冬日ノ畜養ニ於テ、必要ノ食料ヲ算スルニ、總テ肥大ノ羊及ヒ諸種ノ羊ヲ平等ニ算シ、其肥大ノ羊ヲ畜

養スルニ毎日十分其食ヲ與ヘテ。是ニ費ヤス所ノ枯
 草ノ高二介半ト定ムルヲ算ス可キナリ。然ト雖モ、
 羊ニ良シキ枯草ヲ食マシムルヲ難クレハ、滋養ニナ
 ル可キ他ノ食料ノ價ヲ知ルヘキヲ要ス。是冬日ノ
 畜養ニ於テ用フル所ノ食料ヲ知ル可キヲノ要旨ナ
 リ。

○若シ良好ノ牧草、苜蓿ノ枯草、ソユビ子和名及ヒ
豆
 二番蒔ノ牧草各一斤、并ニ乾葉一斤ハ、枯草一斤ノ價
 ニ同キヲ算スル時ハ、二介ノ藁若クハ二斤ノ馬鈴
 薯、及ヒ蕪菁、穀物一斤三分ノ一、油餅半斤ハ一斤ノ枯

草ニ同シカル可シ。

○羊ヲ畜養スルニ、其食ヲ與フル定時ニ至レハ、必ス
 是ヲ與フ可シ。其食ヲ與フルハ毎日三度ト定ム可シ。
 則チ早朝、日午、日夕コレナリ。其食物ニハ、枯草、藁ヲ以
 テス可シ。枯草ヲ與フルハ、早朝及ヒ日夕ニシテ、藁ヲ
 與フルハ、日午ト定ム可シ。但シ其食時毎ニ枯草ト藁
 ヲ混シタル食料ヲ與フ可シ。其食料ノ枯草ヲ、馬鈴薯、
 蕪菁ヲ以テ補フ可キ時ハ、此食物ヲ日午ニ與フルヲ
 良トス。但シ早朝ハ、枯草ヲ與ヘ、日夕ハ、藁若クハ枯草
 ト藁ト混シタルモノヲ與フルヲ良トス。

○秣槽ノ中ニ枯草ヲ入ル、ハ其以前ニ能ク是ヲ洗ヒテ清淨ニナス可シ。是其中ニ混合シタル塵埃、小石、木片等ノ如キ害ニナル可キモノヲ掃除センガ為メナリ。

○切り藁ニ馬鈴薯、或ハ穀物ノ粉ヲ水ニ和シ、或ハ水ニ浸セル油餅ヲ混シテ食スル時ニハ、其食時毎ニ秣槽ノ格子ヲ善ク淨洗ス可シ。是其格子ノ木材ノ酸味ヲ含ム時ハ其害トナルガ故ニ善ク意ヲ用ヒテ是ヲ洗フ可シ。

○羊ニ鹽ヲ與フルト甚タ良シ。鹽ハ一週間一度盤中

ニ入レテ與フ可シ。或ハ羊ノ小屋ニ槽狀ノ器具ヲ製シテ、其中ニ硬キ鹽ヲ入レ置キテ、羊ノ欲スルニ從テ自由ニ是ヲ嘗シム可シ。

○各箇ノ羊ヲ平均ニ算スル時ハ、一匹毎ニ一年間鹽三介半ヲ食マシムルヲ適宜ト為ス。

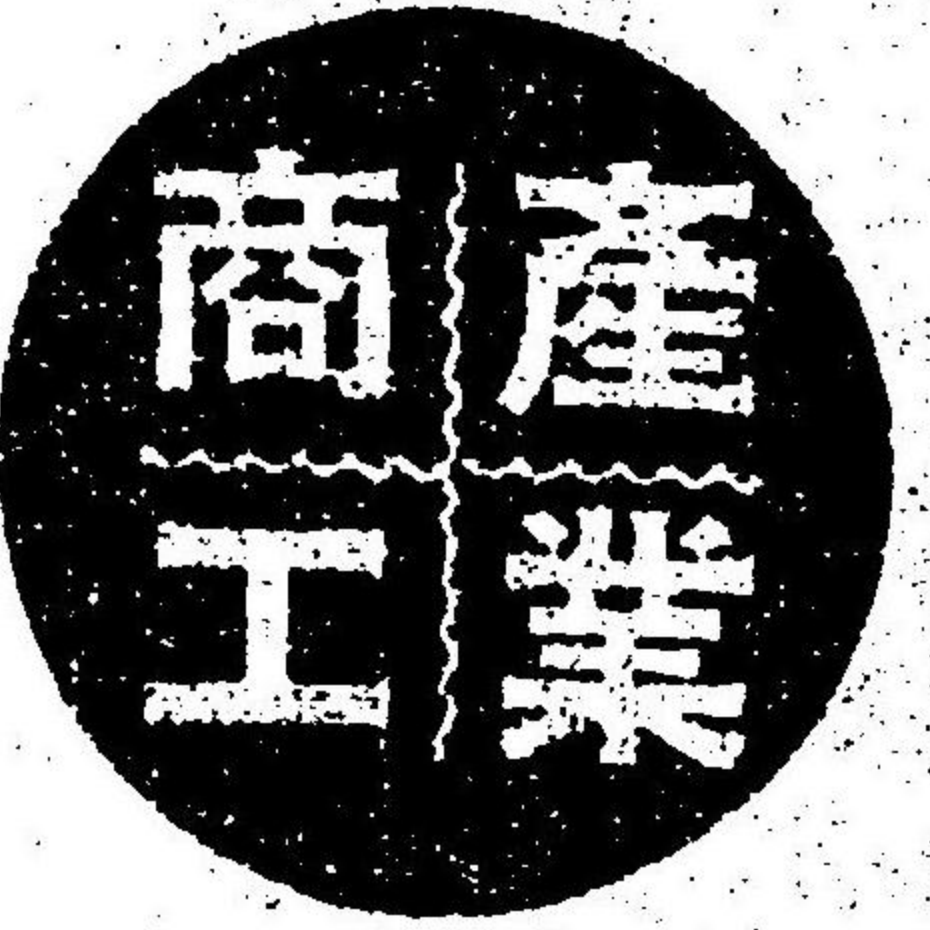
○時アリテ、又鹽槽ヲ設クルトアリ。此鹽槽ニ烹煎セル鹽水ヲ入レ、建質亞那一種ノ菖蒲ヲウセシドギエルデンクラウト一種ノ藥草ノ杜松子等ノ如キ苦味藥ノ細末ヲ混シテ入レ置ク可シ。此鹽汁ハ羊ノ諸病ヲ醫スルニ効驗アリ。

羊ニ清浄ノ水ヲ飲シムルノ最良シ。羊ニ水ヲ飲マシムルノ必ラス怠ルヲ勿ル可シ。水ヲ與フルハ毎日三度トナス。其食時毎ニ先ツ其食前ニ飲マシム可シ。羊ノ欲スルニ從テ水ヲ與フル機會ヲ失ナハザル可シ。最後ノ食時ニ是ヲ與フルノ極メテ良シ。

牧羊説卷之一 終

夏季の増産は非時時々の今日、熱帯の暑熱となつて各方面で飼育者が増加してゐるが、飼養飼育上特に注意すべき事項がある。そこで夏季における飼養飼育法その他について左に記してみることとする。中でも外部寄生虫の預防除滅法たる薬浴に「産業商工」がわが國で輸出されたものは注目して、この「産業商工」の「イパー」氏製「イパー」なる飼養飼育が使用されてゐるが、現時飼養飼育のための輸入設備を受けるにいたつたので輸入設備といふ地位からつひに「産業商工」の「イパー」氏製が牛乳出たものである。しかもこれは従来一週分に要した費用八、九割が僅かに二、三割程度で間に合ふことは業者の利益を著しく減少させた。

夏季の増産は非時時々の今日、熱帯の暑熱となつて各方面で飼育者が増加してゐるが、飼養飼育上特に注意すべき事項がある。そこで夏季における飼養飼育法その他について左に記してみることとする。中でも外部寄生虫の預防除滅法たる薬浴に「産業商工」がわが國で輸出されたものは注目して、この「産業商工」の「イパー」氏製「イパー」なる飼養飼育が使用されてゐるが、現時飼養飼育のための輸入設備を受けるにいたつたので輸入設備といふ地位からつひに「産業商工」の「イパー」氏製が牛乳出たものである。しかもこれは従来一週分に要した費用八、九割が僅かに二、三割程度で間に合ふことは業者の利益を著しく減少させた。



夏季の増産は非時時々の今日、熱帯の暑熱となつて各方面で飼育者が増加してゐるが、飼養飼育上特に注意すべき事項がある。そこで夏季における飼養飼育法その他について左に記してみることとする。中でも外部寄生虫の預防除滅法たる薬浴に「産業商工」がわが國で輸出されたものは注目して、この「産業商工」の「イパー」氏製「イパー」なる飼養飼育が使用されてゐるが、現時飼養飼育のための輸入設備を受けるにいたつたので輸入設備といふ地位からつひに「産業商工」の「イパー」氏製が牛乳出たものである。しかもこれは従来一週分に要した費用八、九割が僅かに二、三割程度で間に合ふことは業者の利益を著しく減少させた。

夏季の

カネ

夏場の暑熱は、養育者にとりて、飼養飼育の妨げとなる。この「カネ」は、夏季の暑熱を予防し、飼養飼育をスムーズにする。...

夏場の暑熱は、養育者にとりて、飼養飼育の妨げとなる。この「カネ」は、夏季の暑熱を予防し、飼養飼育をスムーズにする。...

綿羊の増産は非常時局下の今日、
農家の急務となつて各方面で飼育
者が増加してゐるが、綿羊飼育上
特に夏季は注意を要する。そこで
夏季における飼養管理法その他に
ついて左に記してみることにする。
中でも外部寄生虫の預防除滅
法たる薬浴に「簡易薬浴法」がわ
が國で案出されたとは注目し得る。
薬浴には従來「クーパー氏薬
浴液」なる舶來品が専ら使用さ
れてゐたが、戦時體制強化のため
の輸入制限を受けるにいたつたの
で輸入防壁といふ見地からつひに
簡易薬浴の簡易法ならびに薬浴が
生れ出たものである。しかもこれ
は従來一頭分に要した費用八、九
錢が僅か二、三錢程度で間に合ふ
ことは業者の負擔を著しく軽減
した。

衛生・薬虫 羊舎やその周囲は
常に清潔にしまた外寄生虫(煤
風虱、疥癬、羊疥癬等)に對する
預防除滅法としては薬浴を行ひ

内寄生虫(胃腸線虫等)に對する
防滅法としては硫磺銅および鹽
草浸出液を1〜2%水溶液を
等量に混合して成綿羊には一回
五斗、仔羊には三斗前後を服用
させる。これを夏季一月に一回
ぐらゐの割合で繰り返すと効果があ
る。たゞ投薬前一日間及び投薬
後五、六時間は絶食させること



◇凡て病氣に罹るよりは預防衛生に
心懸けることが第一、綿羊は身體一
面に羊毛に被はれ、その上柔らかな
物だから疾病の初期に発見しなかつ
たり不明瞭なことが多いから朝夕
の飼付の時や接する機会ある毎に
注意深く動作や食慾元氣の有無、皮
膚の彩色、臭氣などを観察する必要
がある。
そこで前記の薬浴の簡易法を述
べれば——硫黄(または硫黄華)

五八匁と生石灰一九匁を碎いて
瀬戸引容器に入れ水を徐々に加
へながらこれを一旦泥状にし
てよく混ぜ水四合ぐらゐの使用し
たところで次第に加熱(二時間
程度)し熱には蒸溜させる。こ
のため液が濃ければ適宜水通り
に加水した硫黄粒の浮いてゐ
るものは完全に溶かし、この液

を全身浸すかあるひは藥劑を全
身に注ぎかけてのちを十分しほ
つて身體の乾きを早め同時に乾
り出した藥劑を捨てずに桶に加
へてまた使へば藥劑の損失を少
くし相當の頭数におよび得るは
すである(しかし十日間を経過
すると效力を失ふ)。
◇そしてこの薬浴は原則として剪毛

特に目立ち八月下旬の剪毛期
から初秋の剪毛期にかけて雨後
の溼い午後などに特に現はれ
る。これには急性と慢性のもの
とがあるが先づ動物を清潔な場
所に移し頭部を冷水で冷し石鹼
水または冷食鹽水で必ず十分な
洗滌を行つて膿癬體を取除く。
◇次いで芒刺または人工カールス泉

夏季の牧羊管理 簡易薬浴を勵行せよ

を布で覆すとこの濃液が大體四
合ぐらゐ出れるわけだからこれ
に四斗二合の水を加へて十分攪
拌し沈澱物が無い状態で使用す
る。以上の薬方は成綿羊二頭分
であるから成るべく頭数を應
じて組合員共同作業により桶など
を用意して右の割合に準じて薬
浴劑を作れば良い。使用法は藥
劑を入れた桶の如きものに綿羊

後二、三週間経つて實施するのが最
も良い。實施する前日は絶食させ當
日は晴天の日を選び可成朝早く行つ
て一日日光の下で乾かせばよい。
腰麻痺 暑熱厳しい時に頻發
する腰麻痺は榮養不良のやうな
ものには餘りなくむしろ肥り過
ぎのものと發育盛りの牝羊或は過
去に日射病、熱射病、腰麻痺など
に罹つたことのある綿羊などに

鹽末を三五〜三〇匁適量の水に溶か
して内服せしめ後尿化加里一匁〜二
匁を服用せしめて安静を保たせるの
である。
剪蹄 次に大切なことは剪蹄で
ある。蹄を剪るには綿羊の膝部
を後下部に置きその脚體を人の
兩膝股の間に軽く當てがひ綿羊
を直立安定させて剪蹄者は前方
に身體を延ばし屈みながら左手
に蹄部を支へて右手の剪蹄鉋を

使ふのであつて蹄溝に面する内
縁部は特に丁寧に除去し四肢の
蹄の切口が同一平面になるやう
にするのが肝要。
◇この作業は極く簡單だが重要なこ
とで、月に一回または三月に二回は必
ず行はるべきである。それは蹄が徒
らに厚くなるとその間に損傷を受け易
くなり、細菌が侵入する機會が多
なつてために腐蹄症となり歩進すれ
ば蹄の内面を通じて身體まで侵され
ることもあり場合腐蹄には陥らな
くとも不自由な四肢では十分な運動が
出来ず消化も衰へ食慾も減じて榮養
不良に陥るとなるから蹄を延ばし
たまへて他の飼養管理を怠ら勞めて
も仔羊の取れるやうな種羊には到底
ならぬ。本式の剪蹄鉋は到底
簡便はどことでもあるはずだから四
五分間でも出来る。偶々少しづつ出
血したとしても木タール或は消毒劑
でも二、三日冷布して置けば心配す

るにはお上成ない。
離乳前後の注意 今春生れた
仔羊は今では随分大きく生育し
てゐるはずであるが、原則とし
て成る可く長期に亘つて授乳を
續けるほど仔羊の發育は良い。
通常授乳期間は一〇〇日〜一五
〇日間で餘り長くなつても母羊
が榮養を取られ疲勞が甚だしい
から適宜に仔羊が育つて飼料も
細羊と殆ど同じやうに採食する
ぐらゐになれば離乳しなれば
ならぬ。
一方母羊は儼かに哺乳をせめる關係
上乳房炎に罹り易いから離乳後一兩
日は乳の出を鈍らせるため濃厚飼料
の投を少く減らし、なほ乳房に乳
の溜る状態を檢し数日間時々搾乳し
て漸次授乳回数を減らすやうにし、
なるべく早く乳の上るやうにすべき
である。

暖流

(129)

岸田 國士 作
岩田 專太郎 繪

(無断上映
上演を禁ず)

「着て、襦袢の方へ消えて行く。
季節はづれの海には、静寂の客ら
しい影はまつたくなく、地引をひ
く漁師の影が、奥から響いて来る
と、雪子は、母を促して、石ころ
で置きながら、駆け出すのであ
る。」

「みづともないよ、雪子さん……
そんなに急がなくつても間に合ひ
ますよ。」

「母、彼女、急いで何をみよう
といふわけでもない。たゞ、母の
足跡を……」

「一行つてみませうよ。歩いても
わからないつて、女中がいつてたわ。
何時か父さまと行った時は、どの
道を通つたのか知らず、自動車でな
まや近道がある書上」

「それより、あんた、電話は大丈
夫……」

「大丈夫よ。今日はかゝつて来や
しないわ。旅行つていへば、日か
かるかわかりやしないんですも
の。でも、日足を押んでどうなさ
るの、いったい……」

スーユニ豆

▲…本社の宗廟不
Mの筆名で「起日月」
を連載してゐる松原致
遠氏がキング九月號に
發表した「限りなき心
の力」は大反響を呼び
し、真鍮な産状や激動
の聲が全国の讀者から寄せられ
キング編輯局を賑かしてゐる。
時局柄、平素雑誌を讀まぬ向
もこの一冊は目迷せないと大評
評である。キング九月號六十號

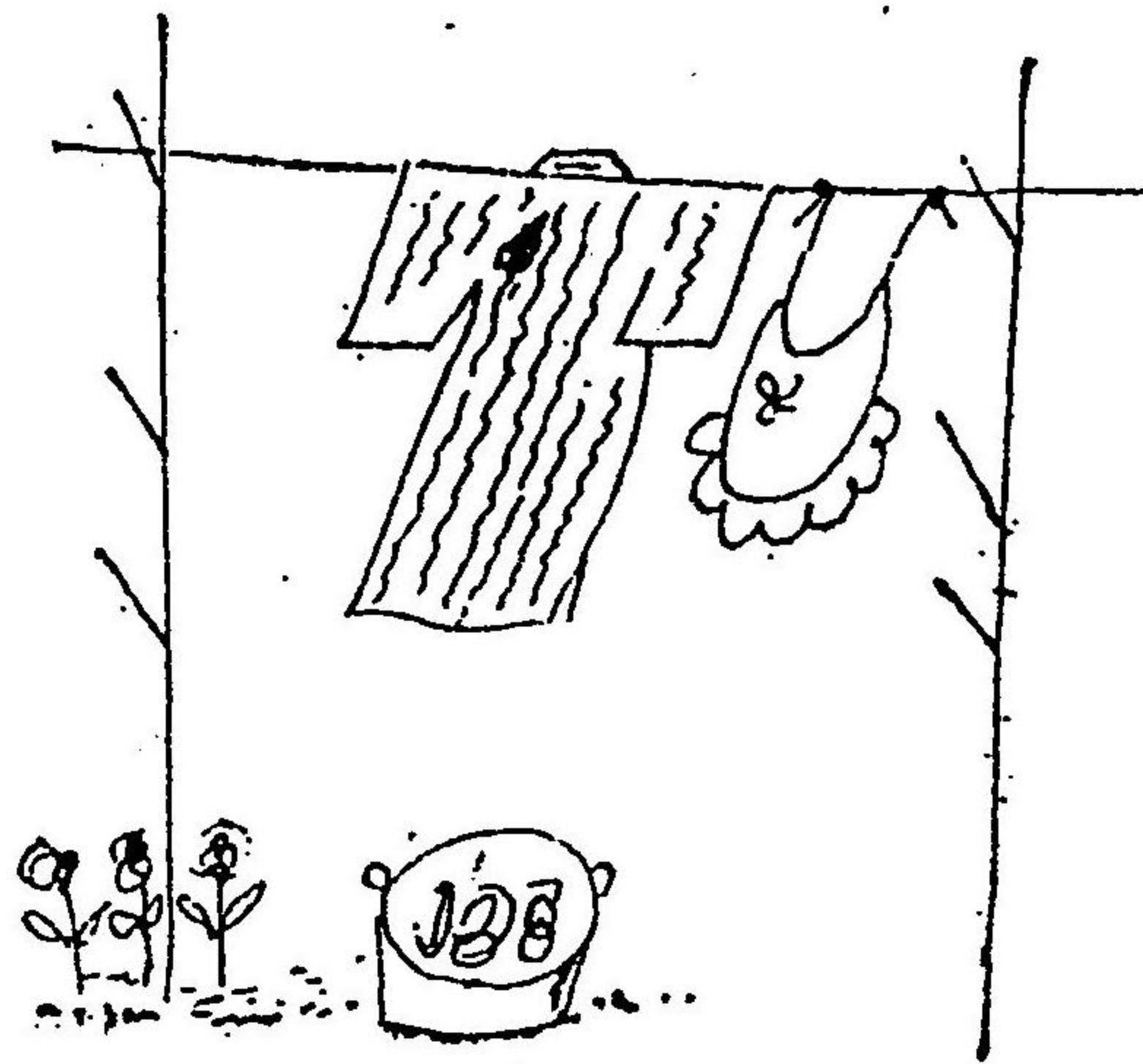
月やく

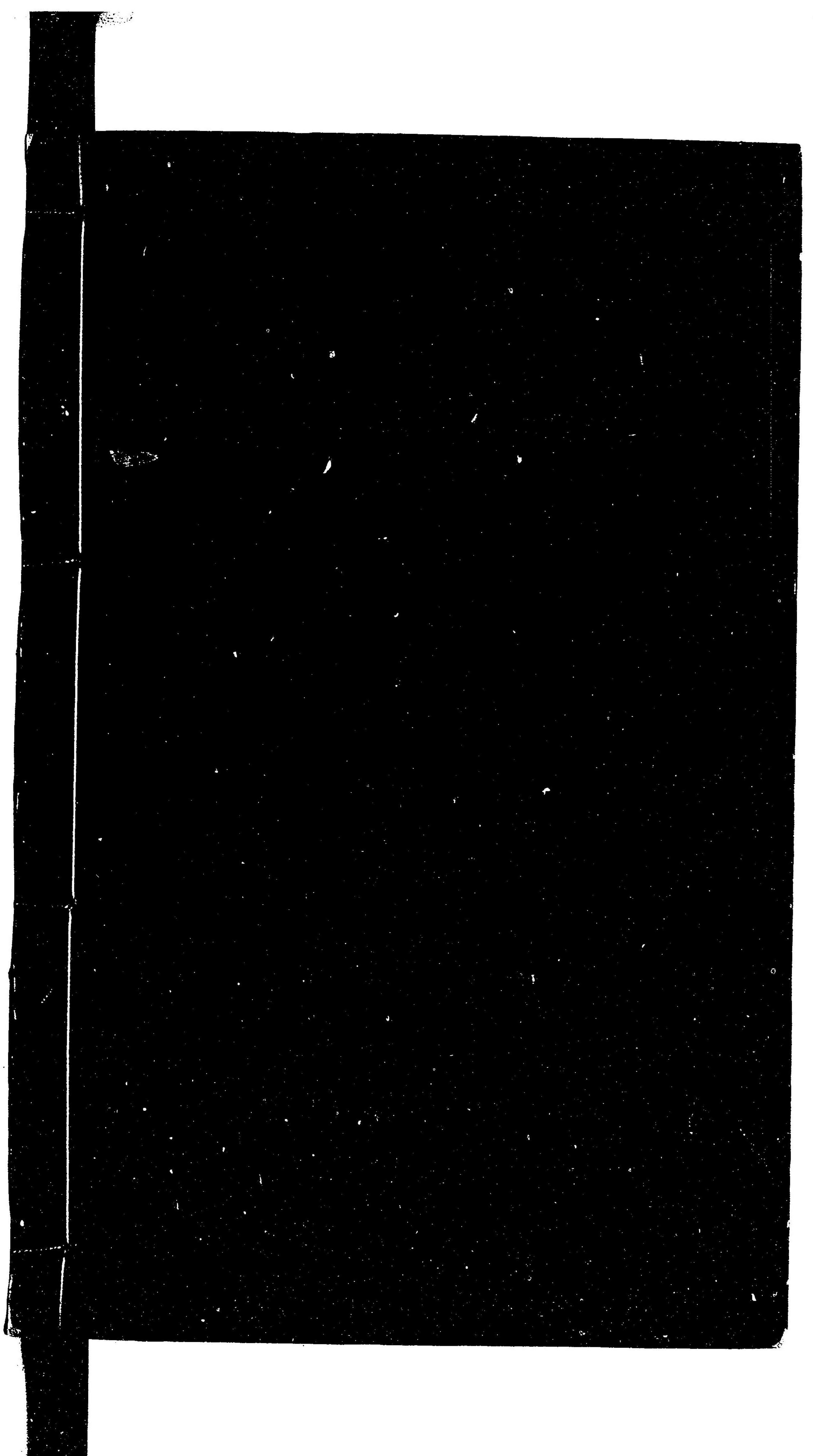
大阪市桃山橋西門西

安全にキク私
オ越か手紙
大西ふく

森永ドロップス

大阪あみだ池西門前浪華工機商會





予多年西洋農學ニ志アリテ、嚮^{サキ}ニ牧牛説ヲ譯シテ世
 ニ公ニシ。今亦友人某ノ懇^{マカ}通ニ任セテ、此書ヲ譯述セ
 リ。原本ハ獨逸國ノ學士レーベ氏ノ一千八百六十三
 年第六月來^{ライ}責^{ツキ}ニ於テ著述シ、後四年ヲ歷テ、同所ニ於
 テ出版スル所ノ「ブツフ、デル、ランドマン」ト題セル農
 學書ヨリ撮譯シタルモノナリ。其書卷帙浩翰ナラス
 簡易ノ書ナリト雖モ、素ヨリ經濟書ノ一ニシテ、農事
 ニ於テ必ラス欠ク可カラサルノ書ナリ。其足ラサル
 所ノ箇條ハ、エ^インク^クラ^ラール^ル氏ノ農學書中牧羊ノ條ヲ

柳原省吾



緒言

予多年西洋農學ニ志アリテ、嚮^{サキ}ニ牧牛説ヲ譯シテ世
 ニ公ニシ。今亦友人某ノ懇^{マカ}通ニ任セテ、此書ヲ譯述セ
 リ。原本ハ獨逸國ノ學士レーベ氏ノ一千八百六十三
 年第六月來^{ライ}責^{ツキ}ニ於テ著述シ、後四年ヲ歷テ、同所ニ於
 テ出版スル所ノ「ブツフ、デル、ランドマン」ト題セル農
 學書ヨリ撮譯シタルモノナリ。其書卷帙浩翰ナラス
 簡易ノ書ナリト雖モ、素ヨリ經濟書ノ一ニシテ、農事
 ニ於テ必ラス欠ク可カラサルノ書ナリ。其足ラサル
 所ノ箇條ハ、エ^インク^クラ^ラール^ル氏ノ農學書中牧羊ノ條ヲ